

議会報告会 実施報告書

実施日時	平成24年11月22日（木）19：00～20：30		
会場	栗野公民館	来場者数	25人
主担当班	B	前川和治、田中和義、有馬茂人、北村伸治、原幸雄、増田敬	
		司会進行	前川和治
		報告	(1) 原 幸雄 (2) 有馬茂人
		パワポ操作	田中和義 記録 増田 敬
副担当班	C	福谷正人、山崎法子、馬淵清和、上原修一、林正男、木下章	

1 質疑応答及び意見

(1) 9月定例会の主な審議内容報告

Q1：今日の報告で、議会のことが少し分かってきた。宿泊客を増やすための取り組みで、予算がどれだけかかったのか知りたい。また、雇用促進にどれだけかかったのかも知りたい。

A1：予算は約450万円である。雇用促進分とDM発送分の費用である。

Q2：駅のバリアフリー化と交流広場の建設にどれだけのお金が動いたのか知りたい。駅前広場に太陽光パネルを設置するという考え方は理解できない。この事業の理念とコンセプトについて説明してほしい。

A2：バリアフリー工事は19億円の工事費用がかかった。敦賀市の負担分は11億円である。

交流施設は8億円である。敦賀市の負担は6億円である。

本来はJRが全額出資すべきという議論もあったが、市民の利便性も考えて税金を投入している。

Q3：北陸に住むものとして太陽光なんてとんでもない。なぜ太陽光パネルを設置するのか。

A3：エネルギーの街として、これからの再生エネルギーもイメージしてシンボリックの意味合いがあり設置することとした。

Q4：国は30年後に、原発ゼロを提案しているが、どうも危なっかしくて仕方がない。どうしたら、安全に原発を操業できるか検討すべきではないのか。再生可能エネルギーでは採算が合わず、日本経済を支えきれないのではないのか。

A4：エネルギーのお手本となるような地域なので、今後とも安全対策を勉強していく。

Q 5 : 革新的エネルギーと環境戦略の見直しと、駅の太陽光パネル設置ということは整合性がとれないのではないか。

A 5 : 意見書は、敦賀市としては国のエネルギー政策が急に変わると困るという意見書。駅の太陽光パネルはエネルギーのベストミックスも考えているという意味も込めてシンボリックに設置を予定している。

Q 6 : 国会に意見書を提出したとのことだが、意見書の提出くらいでは、国や、行政機関を動かすことは出来ないのではないか。何か効果的な方法と方策はないのか伺う。

A 6 : 原子力立地地域 1 市 4 町一丸となって国に意見を言っている。市長は全原協として国に意見を言っていて議会と行政両方で意見を国に届けている。

(2) 議員定数についての検討状況報告

質疑なし

(3) 市民の市議会や市政へのご意見

Q 1 : 議員定数を減らす目的は市の予算を削減することであり、議会に支障を来たすのであれば、報酬を減らす以外にない。外国では無報酬で各層から出てきて議員をしているところもある。今日の報告の中では定数削減を主体に検討しているようだが、報酬の話は検討はしていないのか。

A 1 : 定数を削減すれば、議員 1 人当たり 500 万円くらいの議会費の削減になる。市民からも定数削減の声が出ており、議会の機能を落とさないためにはどうしたらよいかも考えながら、まずは人数を検討している。人数と報酬を同時に考えると議論が混乱してしまう。しかし、報酬に関するご意見があったことも頭に入れながら、今後も検討していく。

Q 2 : A 市、B 市、C 市で事例紹介をするのはなぜか。実名で説明をしたほうが説得力があると思うが、隠しているような印象を受けた。

A 2 : 問い合わせた議会事務局職員の主観も入っているので、せっかく調査に協力してもらったのに迷惑をかけることは本意ではないので、あえて市の名前を出すことは控えた。内部事情で申し訳ない。

Q 3 : 緊急雇用対策事業について、これは雇用が目的なのか事業が目的なのか。事業の中身として大事なものもあるので継続的にやってほしい。

A 3 : これは元々は県のほうから、短期的にでも雇用を創出できるような事業に対し補助金を出すので考えるよう話がきたもので、それに従って実施するものである。

意見：議員定数については、原子力の関係で市の財政も厳しくなってくるので、2人減らして24人とし、なおかつ効率を上げるための知恵を出してほしい。

意見：緊急雇用対策について、多くの予算を配分しているが、短期的な雇用を創出してもトータル的に敦賀市は雇用は十分やっているという話にはならない。よく考えた雇用創出をしてほしい。

意見：敦賀市は原発の先進地であるので、ただ危ないからやめるということではなく、どうすれば安全に運転していけるかを知恵を出して引っ張っていくように議会としても動いてほしい。もっともっと勉強して敦賀市がリーダーシップを取ってほしい。

→ エネルギーの立地地域として勉強し、議会としても進んでいきたい。

敦賀市議会議長 堂前 一幸 殿

平成24年12月18日

敦賀市議会報告会実施要綱第10条第1項の規定により提出します。

代表者 B班 前川和治